

ウワサの保護者会 第34回「ウワサの職員会議
～教えて！先生のホンネ～」



Eテレ 木曜日 夜10時25分～10時49分
土曜日 昼12時00分～12時24分(再)

高山 : 尾木ママ。今回は、ちょっと、いつもと雰囲気…。
尾木 : 僕、さっきから変だなと思っていたの。
高山 : いつもは、あちらにホゴシャーズの皆さんが座っているんですけど、きょうは「ティーチャーズ」先生方が座っていらっしゃいます。
尾木 : じゃあ、「保護者会」じゃなくて、「職員会議」？
高山 : そういうことになります。
きょうは先生方の本音にせまっていきましょう！

子どもが日中の大半を過ごす学校。

でも、学校について、不思議に思うことってありませんか？

そこで今回、番組では、全国の保護者にアンケート調査を実施！

テーマは、「学校の先生に聞いてみたいこと」

これまで気になってはいたけれど、先生にはちょっと面と向かっては聞けなかった、あんなことやこんなこと。それに答えてくれるのが、今回のメンバー、ホゴシャーズならぬ、「ティーチャーズ」

【ティーチャーズ】

ゴリラ (70代) : 元公立中学校長
タイガー (50代) : 東京都・公立小学校長 教員歴 30年
ラ・フランス (30代) : 奈良県・公立中 教員歴 12年
サイ (30代) : 北海道・公立小 教員歴 10年
ガーベラ (30代) : 東京都・公立中 教員歴 7年



現役の小中学校の先生や、校長先生、さらには元校長先生など多彩な顔ぶれ。

さあ、先生たちにいろいろ聞いちゃいましょう！

題して、「ウワサの職員会議～教えて！先生のホンネ～」

- 高山 : 明らかに、いつもと漂う空気が違いますね。
尾木 : 違いますね。いつも、ざわざわ、おしゃべりが多いのよね(笑)
きょうは、なんか本当に職員会議の前の時間みたい。
高山 : きょうは全国の保護者の皆さんが、先生に率直に聞いてみたいことを皆さんにぶつけますので、本音で語っていただきたいと思います。よろしく願いいたします。
まず、最初の質問なのですが、こちらをご覧ください。

家庭訪問でケーキを食べる先生と食べない先生がいるけど、どうして？

わが家では家庭訪問のとき、精一杯のおもてなしとして手作りケーキを用意しています。でも、1年生のときの先生は食べてくれたのに、2年生、3年生のときの先生は食べてくれませんでした。「お気持ちだけで十分です」とお茶すら飲まない先生もいらっしゃいます。子どもは、私が心を込めて作ったケーキを食べてもらえず「せっかく用意したのにね…」と、残念がっています。教育委員会などから「食べてはいけない」という、何か指導でもあるのでしょうか？
【ホゴシャーズ：セーブル(母) / 長男・小3】

- 高山 : どうなんですか？
サイ : 決まりは特にないと思うんですけど。立場を変えてもらおうとわかると思うんですけど、1日に8軒とか10軒行って、毎度ケーキを食べているとどうなるかっていうことですね。
質問に出てきた先生は、きっと何かの事情があったんじゃないかなと思うんですけど、周りの先生で一切手をつけないっていう先生もいます。差をつけちゃって、お母さん方にむだな心配というか、「うちがこうで、あなたのうちがこう」という、その差がお母さんたちに心配を与えてしまうので、一律こういうふうにしていますっていう先生もいらっしゃるかなと思います。
高山 : 尾木ママ、ケーキは食べていました？
尾木 : ケーキは、僕も食べなかった。僕の場合は校長先生が「そういうのはご遠慮させていただきます」って学校から通知みたいなを出してくれたの。通知にも書かれているとおりですと言って、断りやすかった。
ところが、いちばん最後のうちが困ったのよ。「先生、うちで最後でしょ？」とか「いいじゃない、大丈夫よ」とか言われて、1回ぐらい食べたことある(笑)
ラ・フランス : それこそ、生徒が「きのうから準備して作ったんです」とか、焼いてくれたのとかあると、やっぱりちょっといただいたり…。
高山 : タイガー先生は東京ですよね？家庭訪問、いかがですか？
タイガー : 東京はですね、親御さんも働いている人が多くて、家庭訪問のために時間調整をするっていうのに、ご負担をかけるっていうことで、だんだんと変わってきて、私の学区域では、家庭訪問から“居住地確認” 家の場所を確認するっていうかたちで、直接親御さんとは会わないかたちになっています。



タイガー：「居住地確認」って、言葉を聞くと保護者にとっては堅いですけども「われわれは、居住地、自宅を確認させてもらいます」というかたち。

個人面談は、また別途違うスケジュールですと。

高山：家の中に上がりこまないということですか？

タイガー：はい。

ガーベラ：私も東京都なんですが、基本的には家庭訪問はやらないで、何かお話ししたいときは、三者面談で保護者の方に学校に出向いていただいて、生徒と3人で話すっていうかたちが、たぶんいまは一般的じゃないですかね。

高山：尾木ママは、東京で教えていらっしゃいましたけども。

尾木：僕はずっと、家庭訪問時代ですから、1週間かけて1日8軒から10軒回っていましたよね。

ゴリラ：ですから、いまの先生方はそういう面では、私はかわいそうかなと思います。変な言い方になりますけれども。本当の子どもとの接点、親との接点というんですかね。それを少なくしているんじゃないかなって気がします。

尾木：それと、僕が楽しみにしていたのは、次のうちへ生徒に案内してもらうの。そのときに「お母さん、優しくじゃない」とか言って、おしゃべりしながら次のうちまで、10分近くかかったりしますよね。家を見てからその子と話す、その間のコミュニケーションが、なんか一味違うんですよ。あくる日の学校生活から急に親しくなったみたいな感じ。それが僕にとってはよかったわね。

ラ・フランス：私も生徒について行ってもらうんです。“デート方式”って呼んでいるんですけど。



尾木：楽しいですよ。自転車押しながら。

ゴリラ：私は子どもに迎えに来させる。迎えに来させて、(自宅に)連れて行ってもらう。

まず(家庭訪問の前に)ワンクッション、前段で話をしちやいます。「親に言っちゃいけないことあるか?」とか、そういうことを聞いて、子どもとのコミュニケーションを図って親との面談をするという感じをとりました。

尾木：「お迎え方式」ですね。

続いての質問は、「学校の近くでは、恋人とデートはしない?」

私が小学生のころの担任はとても真面目で地味なタイプの女性の先生でした。

彼氏なんていないだろうと思っていたのですが、ある日、「あしたから名字が変わります。結婚しました!」と、突然報告があり「あの先生がいつの間に!?!」と、クラス中が騒然となりました。

冬休みに先生の家に遊びに行くと、結婚相手との写真がたくさん飾られていて、ふだんとのギャップにも驚きました。

やはり恋人とのつきあいなどは、子どもに見つからないように学校の近くは避けているんですか?

【ホゴシャーズ：うめ(父)/長女・小2/長男・年中】

高山：ラ・フランスさん、いかがですか?

ラ・フランス：正直言って、募集中なので、もし…。本当に、できたら逆に連れ歩いてアピールしたいぐらいですけどね(笑)

やっぱり、友人と遊ぶときも、(学校の近くは)ちょっと避ける傾向はあるかなとは思いますが。

ガーベラ：“ある意味有名人”っていうのがあって、私はあまり避けたいんですけど「見たよ」とか言われちゃうと「えっ?そうだっけ?」みたいなことはありますよね。

ラ・フランス：なので、どこか遊びに行き帰ってくる時、わざと終電で帰ってきて(生徒と)会わないようにしたり。

高山：人目に付かないようにする。

ラ・フランス：はい。

高山：じゃあ、関連してもう1つ質問したいと思います。

「休みの日は何をしていますんでしょうか?」

サイ：旅行に行ったりはしますけど。とりあえず、ゆっくり休みたいなど。

でも、僕らは1泊でも市内を離れるときは、校長先生に届け出をしないとダメで、必ず「どこに行きます」とか、「何のために行きます」ということを言わなくちゃいけないんですよね。1日でも夜、家を離れるときは、届け出を出すっていうことになっていて、海外に行くときは、教育委員会に申請をして、許可をもらうということになっています。

高山：例えば、恋愛時代「彼女とデートに行く」というときも?

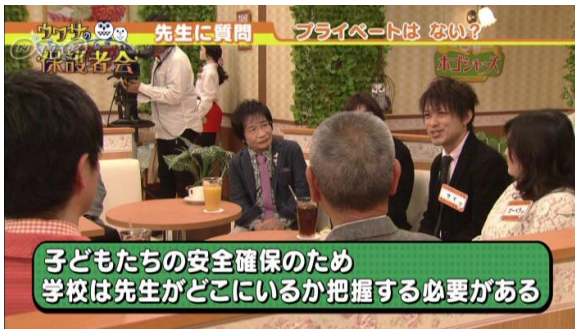
ウワサの保護者会 第34回「ウワサの職員会議
～教えて！先生のホンネ～」



Eテレ 木曜日 夜10時25分～10時49分
土曜日 昼12時00分～12時24分(再)

サイ : はい。一応、届け出なくちゃいけないですね。

最初は、なんで（届け出を）出さなくちゃいけないんだって思っていたんですけど、理由を聞くと「万が一災害が起きたときに、学校が避難所になる。子どもたちの安全を確保するために、どこに誰が行っているか学校として把握しておく必要があるんだ」って言われたときに、「休みでも僕らは大事な仕事を持っているんだな」なんて、そんな気もしましたね。



高山 : なるほど。ちなみに、先生方は、休みはちゃんと取られるんですか？

タイガー : (1週間のうち) 1日は完全オフにしています。

高山 : じゃあ、オフの過ごし方をぜひ教えてください。

タイガー : オフは、夏だったら、一日中パジャマで昼間からビール飲むとか。

尾木 : 昼間からビール、いいな～。

タイガー : 切り換えないと。ずっとオンのままだとやはり疲れるので、“オン・オフ”を、自分では切り替えているつもりです。

続いての質問は「子どもの情報や人間関係は、どう把握しているの?」

先生は子どもたち1人1人のことをふだんどこまで把握されているのでしょうか。すべてを完璧にというのは無理だと思うのですが、保護者としては、子どもの変化や人間関係のトラブルに、すぐに気がついてほしい、というふうに思っているのが本音です。

【兵庫県 中1男子の母】

高山 : どんなふうに皆さんが、アンテナを張っていらっしゃるのかなという、関心が高いようなんですが、どうですか？

サイ : 先生方って子どもの話をすることが大好きなんですね。ふだん、放課後も大体子どもの話をしているし、職場の飲み会に行っても子どもの話。だから、個室を取らないとまずいんですけど。でも本当に、何次会に行っても、うちのクラスがこうでああで、どうしたらいいんだろうって。

ラ・フランス：やっぱり、自分が見ている面と、他の先生が見ている面が違う。やっぱりどうしても得意・不得意というか、私はこのジャンルには強いっていうのもあるかもしれないので、やっぱり（子どもの情報を）共有することが一番大事なのかなと思うんです。

尾木：「自分ではわかってないものだ」と思うぐらいのほうが正しいかなと思うわね。

高山：じゃあ、一人一人ちゃんとわかっていますっていう先生はいない？

尾木：それはありえないでしょ。みんなで（子どもたちを）見て、情報共有をしないと。

ガーベラ：体育の先生にいろいろ話を聞くことがあります。例えば、体育だと薄着になるので、ちょっとこの子痩せてきたなとか、ちょっと体にアザがあるなとか、そういうところを発見しやすかったりするんですね。あと、高校だと、ちょっと息が切れてきたなとかいうと、喫煙の可能性はあるんじゃないかとか。

高山：おやおや。

ガーベラ：結構、そういう問題行動の発見にも役に立ったりもするので、体育の先生と連絡を密にとったりしていますね。

高山：じゃあ、続いての質問にいきたいと思います。

「ひいき」は本当にないの？

娘のクラスに、勉強ができてクラスの仕事も率先してやる、優等生がいます。娘は、担任の先生の子への接し方に不満があるようです。

例えば名前の呼び方。その子には下の名前で「ちゃん」づけなのに、目立たないタイプの娘には、名字で「さん」づけです。「どうせ私はお気に入りじゃないから…」と言っている娘が少しかわいそうです。お気に入りの子に、つい「ひいき」してしまうことはあるのでしょうか？



【東京都 中1女子の母】

ウワサの保護者会 第34回「ウワサの職員会議
～教えて！先生のホンネ～」



Eテレ 木曜日 夜10時25分～10時49分
土曜日 昼12時00分～12時24分(再)

高山 : ひいきって言葉を見ただけで「はあ」と、ため息をついたサイ先生(笑)

サイ : いや、まあ、ひいきは、しているといえばしていると思うんです。どの子にも、35人いれば35通りのひいきをしていると。

タイガー : われわれ専門的には“個に応じた指導”ですよね。個に応じた指導なので、A君の対応、B君の対応、違っていいわけですよね。それが保護者から見ると、対応のしかたが違うからひいきじゃないかって。



サイ : ちゃんと教師には意図があるんだっていうところをわかってもらえてなかったのと、このVTRもそう(ひいきだと)感じちゃう対応がきっとほかにあって、名前のことだけじゃないと思うんですよね。

ラ・フランス : 一場面だけ切り取ってしまうと、もしかしたら違う(ひいきの)ように見えるかもしれないですけど、そうじゃないよっていうことで、いかに(親を)納得させるかっていうことも大事だと思うんです。

サイ : 例えば、忘れ物をした子に怒る場合と、ある子は同じものを忘れたのに怒られなかったっていうときが、うちのクラスでもあります。それは、子どもたちにも言っちゃうんです。「どうしてこの子は怒られて、この子は怒られなかったんでしょう？」って。そうすると、子どもたちはね、「たまたま忘れただけだから、たまたまなのに怒られるのはひどい。だから、先生怒らなかったんじゃない？」っていうふうに、子どもによって対応を変えていることはよくあるんですよね。

尾木 : 本当に機械的に同じ方法だったら、それこそおかしいですよ。それはありえないです。

高山 : さらに、こんな声も寄せられています。

娘は担任の先生に対しても、間違っていると思ったら、先生に対して「これ、間違っていないですか」とはっきりと言ってしまいう子です。例えば、先生がきつく叱ったときに「そういう言い方はないんじゃないですか？」などと言ってしまいます。先生からこの子ちょっと苦手だなと思われていないだろうかと心配です。

【神奈川県 中1女子の母】

ウワサの保護者会 第34回「ウワサの職員会議
～教えて！先生のホンネ～」



Eテレ 木曜日 夜 10時25分～10時49分
土曜日 昼 12時00分～12時24分(再)

高山 : どうですか? 教え子との相性っていうのはあるもんですかね。

サイ : あるといえばある。

タイガー : あるよね?

サイ : あるとは思うんですよね。苦手だなんてこっちが思うっていうより、子どもたちのほうが「あの先生ちょっと苦手だな」って思うことがあったり、「この先生大好き」っていうのがあったりすると思うので。

高山 : こちら側からはどうですか? 「この子は…」とか。

サイ : いや、そんなに。なんか、むしろ手がかかっても、その子のことは嫌いにならないしね。どの子もかわいく見えちゃうっていうのはあるかな。

中学校の先生は、どうですか?

ガーベラ : いや、かわいいですよ。

ラ・フランス : かわいい。

高山 : そうですか。

ゴリラ : 先生方は優秀ですね。私、きょう初めて会いましたけども。

得手・不得手の関係、相性の問題でいえば、1人や2人はいますよ。「あの子がいるとやりにくいな」とかあります。ただ、それを悟られちゃプロの教師としてはダメなんです。それを越えて指導ができないと。

尾木 : 相性の悪い子、よい子っていうのはいます。僕、ずっといたよ。いまだから言うけど(笑)

高山 : <若手の先生に向かって> じゃあ、この先皆さんも出会う可能性もあるかもしれない。

タイガー : それで、取り組んでいって、指導していって、いい関係になれば本当にハッピーなんだけども、最後まで合わないときがあると思うのね。管理職に(先生が相談に)来たときには、僕はいつも、そのときは「ドライになったほうがいい」と言っている。

ドライにならないと、返ってメンタルで自分のほうが病む。それよりも、右に流せるぐらいにっていうようなことを言わないと、教員のほうが潰れてしまう可能性がある。

高山 : どうですか? サイ先生。先人というか、先輩の声を聞いて。

サイ : いや、頑張らなきゃなど。

でも、どんな子でも、僕らが嫌いになっちゃダメだなと思うので。

一同 : そうそう。

サイ : 別に、そう言い聞かせているわけじゃないですけど、どんなに言うこと聞かない子でも、プンってする子でも、いつも何かしようって思って、頑張っていきたいなと思いますけどね。

ゴリラ : 優秀だね(笑)

尾木 : 優秀です。

高山 : 100点ですね、100点。

(一同笑)

番組には、先生に対する質問以外にも、「子ども一人一人をきちんと見つめてほしい」といった、要望も多く寄せられた。

私が子どものころは、休み時間によく先生と一緒に遊んでくれ、今でもいい思い出になっています。でも、最近の先生は忙しいのか、あまり一緒に遊んでくれない印象です。子どもたちと、もっと積極的にコミュニケーションを取ってほしいです。



【群馬県 小6男子・小2女子の母】

高山 : どうですか？遊んであげたいなって気持ちはあるのに、やってあげられない？

サイ : そうですね。休み時間も本当に何かに追われていると、バタバタと書類を出したり準備をしたりってこともあるので。そのへんは本当に、追われているなっていう気はしますけどね。

高山 : 中学校もやっぱり忙しいですか？

ガーベラ : そうですね。忙しいですね。次の授業の準備があつたりとか、もちろん質問があれば質問に答えたりとかっていうこともありますし。例えば、授業の中で気になる生徒がいたら、そのときに声をかけることもあるので、なかなか、授業と授業の合間の10分間が、教師にとって休みかかっていわれると、それは休みではないかなっていう感じですね。

国際機関の調査では、日本の中学校教員の勤務時間が、参加34か国中、最も長い、という結果が出た。



背景には、先生たちの授業以外の仕事の多さがある。

例えば・・・

職員会議、掃除の指導、部活の指導、テストの採点、教材の作成、翌日の授業の準備、などなど。

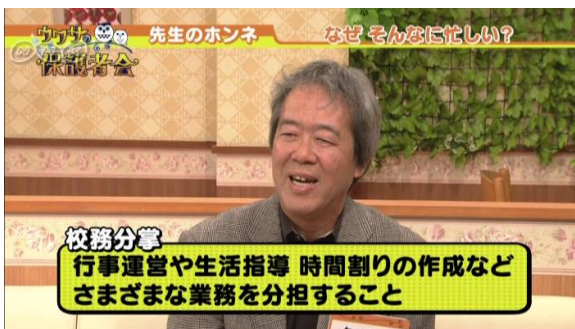
先生の負担を減らすための模索も始まっているが、こうした先生たちの“忙しさ”が、子どもたち一人一人と向き合う時間をとりにくくしている一因ともなっている。

高山 : 他にも、まだありますか？

ラ・フランス : テストの作成も。

高山 : 作成もね。採点だけじゃない。

タイガー : “校務分掌”とって、それぞれ先生たちは担任以外に、それか教科の指導以外に、例えば、学芸会、展覧会だとか、生活指導だとか、いろいろ分掌がある。それが、かなりのウエイトを占めていますね。



高山 : それがかかなりのウエイト…。スタジオの空気重くなっちゃいました(笑)

別の保護者の方ですが「学習の遅れがある子に宿題や補習など、その子に合った教育をもっとしてほしい」というのもあったんですけど、もうちょっと先生に面倒見てもらえないかなと思っていて保護者の方って、結構いらっしゃるんですね。

尾木 : そうですね。

サイ : だから、とにかく残業して、そういう子の問題集を作っあげるとか、できるだけしようと思っているんですけども、なかなかできなくて。後回しにする気はないんだけども、結果的に、なかなか支援が遅くなってしまうっていうことはあるような気がしますけどね。

高山 : でも、本質的には同じ気がしますよね。先生方に期待もしているし、先生もその期待に応えたいという根っこは一緒だなというふうにも見えるんですね。

尾木 : 親の思いと先生の思いは同じなんですよね。

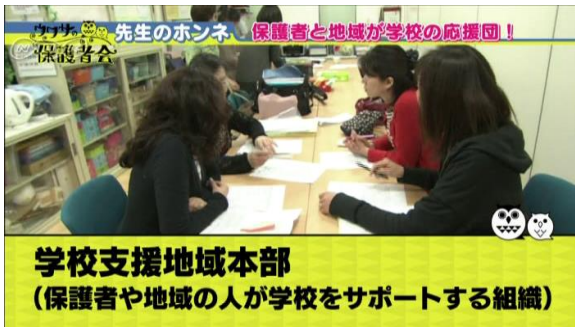
ただ、昔みたいに正面から見える感じじゃないから、すれ違いとか誤解も、それだけ大きくなっているのかもわかんないですよ。

高山 : ここはもうちょっと何かうまくいく方法っていうのを考えたいんですけど。

タイガー先生の学校は、比較的運営がうまくいっている？

タイガー：あの、文部科学省が進めている学校支援本部っていう。例えば、書き初めを台紙に貼って掲示するじゃないですか。あれ、大変じゃない。そういうのを保護者がやったり、地域がやったり。それから、遠足の引率を地域の方に一緒にしてもらうように頼むとか。

タイガーさんの小学校で、8年前から始まったのが、いま全国で増えている“学校支援地域本部”というもの。保護者や地域の人々が、学校の応援団として活動するための組織だ。



例えば、放課後の学校で子どもに勉強を教えたり、書き初めの掲示を手伝ったりすることで、先生の負担を少なくしている。



さらに、保護者がグラウンドの整備をしたり、地域の人々と交流する校外活動にも参加するなどして、子どもの学びの充実にも、一役買っている。このような活動の結果、「学校といっしょに子どもを育てる」という意識が、保護者の間でも高まってきたという。

高山：なるほど。この広がりを、全国にもっと期待したいですね。

尾木：これ、システムとして、すごいいいですよね。こういうシステムが広まってほしい。

タイガー：本当に、そうだと思いますね。

高山：「学校に協力します」というマンパワーを集結。

ウワサの保護者会 第34回「ウワサの職員会議
～教えて！先生のホンネ～」



Eテレ 木曜日 夜10時25分～10時49分
土曜日 昼12時00分～12時24分(再)

尾木 : いろんなアシスタントみたいに入ってきてもらえるってことですから。そういうところの、手が省けるだけで、子どもと接する時間は増えますよね？

タイガー : おっしゃる通り。

尾木 : ほかの国ではずっとやっているんです。日本はこれからどんどん広がれば。ようやくですね。

タイガー : これからですね。

高山 : きょう、たっぷり保護者の皆さんの素朴な疑問というのもご紹介したんですが、なんか発見がありました？

サイ : 保護者の方の疑問っていうのは、僕らにとって当たり前のことでも疑問に思うんだなっていうか、それだけ伝わってないんだなってこともよくわかりました。

ラ・フランス : やっぱり、子どもたちを保護者の方、地域の方とも、みんなと育てていきたいなっていうのを改めて思いました。

高山 : なるほど。

サイ : きょう残念ながら、ここに保護者の方がいないっていうのも、あれなんですけど。お互いの理解が深まっていけばうれしいなと思います。

高山 : はい。優秀ですね(笑)

ゴリラ : 優秀(笑)

高山 : じゃあ、交流戦みたいなやりますか。

尾木 : うん。本当に、職員会議と保護者会が合同の交流会みたいになれば、すごくいいと思いますね。ただね、この保護者会の保護者は、結構口が達者よ。覚悟しといたほうがいいわよ(笑)

ウワサの保護者会では、皆様のご意見や体験談を募集しています。

番組ホームページまで、是非お寄せください！

一緒に考えてみませんか？

(終)